

地域懇談会について



合川 哲夫

Q 地域懇談会では、多岐にわたる要望等に満足な回答はなく、地元役員も悩んでいる。市民参加が成り立つのか、今後の方向性は。

A 地域の代表から、今後も継続してほしいという要望もある。市民と協働のまちづくりを進める上で重要な取り組みであると認識しており、今後も継続していく。

Q 町内会・自治会役員、防災・安心地域委員会役員の他、参加している団体役員は。

A 交通安全協会、防犯協会、青少年健全育成委員会、民生・児童委員、PTA役員、



現役消防団員、消防団OB、地域防災リーダーなど。

Q 町内会・自治会加入者が非常に少なくなっている中、会長や役員は地域の代表と

言えるか。

A 地域における市民の声を聞く機会も多く、地域事情にも通じており、懇談会においても地域住民の代表として発言をしていると認識する。

Q 平成30年で10年目になる。ここで町内会・自治会の理解を醸成する機会として、未加入者を対象に開催して

はいかがか。

A 現段階で、町内会・自治会に未加入者の方を対象とするということとは考えていない。

他に増戸地区生活環境整備について質問した。

有害鳥獣被害対策について



清水 晃

Q 過去10年間の捕獲頭数、被害額及び予算執行額は。

A 捕獲頭数は、サルが39頭、イノシシが268頭、ハクビシンやタヌキなどの小動物が1187頭、カラス・ヒヨドリなどの鳥類が2681羽。被害総額は約2480万円、決算総額は約7500万円となっている。

Q 有害鳥獣の広域的な捕獲と被害防止対策は。

A 現在、都によるシカ対策(シカ管理計画に基づく生息動向調査、狩猟期間の延長、柵の設置)が進められている。イノシシ、サルについても都や猟友会、近隣市町村と連携を図りながら対策を講じていきたい。

Q 山の生態系と生物多様性を守るため、オオカミの復活を目指しては。

A 山の生態系と生物多様性を守るため、オオカミの復活を目指しては。

A 明治38年ごろ絶滅したと言われているニホンオオカミを獣害対策として復活させようという取り組みについて、日本オオカミ協会が推進していることは知っている。しかし、オオカミを輸入し、山地に放すことは、イノシシやシカ以外の動物の生態系に悪影響を及ぼすだけではなく、人的被害、家畜被害なども懸念されることから、個別の自治体での検討は困難であると考える。

他に武蔵引田駅北口土地区画整理事業、自然災害について質問した。

